

研究所年報 巻頭の言葉

和漢医薬学総合研究所年報は、研究所の前身である旧・富山大学薬学部附属和漢薬研究施設(1963年創設)から国立大学設置法により大学附置和漢薬研究所に昇格した翌年の1975年に第1巻が発刊されて以来、今回で第43巻を数えるに至りました。この間、和漢医薬学領域に特化した研究を推進し、更に国内外の伝統医薬学研究をリードする研究者集団としてその使命を果たすとともに、研究組織としての機能を検証し、広く研究活動を発信する目的で成果を取り纏めた年報を発行しています。

和漢医薬学総合研究所は、2010年に文部科学大臣により「和漢薬の科学基盤形成拠点」としての事業が認定され、支援を受けたのを契機に、和漢医薬学やそれに関連する研究の飛躍的進展を図るために研究課題を国内外から広く募り、共同研究を推進してきました。さらに本事業の2013年中間評価以降は、「漢方薬が有する複雑系の解析」を特定研究として掲げ、異分野融合・学際的研究者も参画した体制で「漢方薬や生薬の作用機構」や「未病」等に関する共同研究を推し進めています。本拠点事業は2015年度末をもって一旦終了しました。しかし、この特定研究は、本研究所が中核となって推進すべき重要課題であり、現在も精力的に研究を行っていますので、その成果は近々にこの研究所年報を飾っていくものと期待されます。

本研究所は、これまでに組織としての機能強化と充実に努めて参りました。2017年度4月1日からは昇任教授1名と新任教授1名を得て、新たな組織体制でスタートしました。これを契機に、「漢方薬の複雑系の理解と解明をめざす研究」を推進し、「和漢医薬学を基盤とした次世代医療科学の創生」にも大いに貢献することを目標に致しました。そのために絶えず研究活動を検証・評価しつつ、所員が一丸となって和漢医薬学研究の進展を図る所存です。つきましては今後とも皆様方から一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成29年4月1日

和漢医薬学総合研究所 所長 松本欣三